

有栖川宮職仁 ありがわのみや 書家、歌人。文化九年一月五日京都生れ、
明治十九年一月二十四日歿（八二一六）。幼名八徳宮、通稱中務御宮、
號一品宮、笑山。有栖川宮韶仁しやうにんの子。文政五年 光格天皇の猶子とな
り、翌年親王宣下。のち中務卿に任ぜられ、國事御用掛を拜命して朝
儀に參與。和歌の嗜み深く、書は所謂有栖川宮流を傳へ、歌書兩道を
以て まじりのみや 所宮（明治天皇）の師範となつた。維新後、神道教導職總裁、
皇典講究所總裁等歴任。明治八年第一號旭日大紋章、歿後大勳位菊花
大紋章拜受。

『總裁有栖川宮職仁親王御事蹟』（昭和十一年一月二十五日皇典講究
所編輯）から。

